



和学鍛

朝明中学校通信
令和6年2月20日号


「朝明中生徒心得」を見直しました ～生徒会・生活委員会の取り組み～



本年度の大きな取り組みのひとつとして、「朝明中生徒心得」の見直しを行いました。現行の「朝明中生徒心得」には、細かな規定があります。過去から受け継がれてきたものですが、中には時代に合わない部分があるのも事実です。そのため、1学期から生活委員会が中心となり「令和の時代に合ったものに変えていこう」と、全校から意見を吸い上げ、検討を重ねてきました。また、教員側も、これまであまり議論がなされてこなかったことを反省し、「説明がつかないものは無くそう。生徒の主体性を育てるものにしよう」と、同時進行で協議をすすめてきました。

生徒からは「集団生活を行う上で、ある程度のルールは必要」という意見が多かったことも印象的でした。しかし、靴下や頭髪、校内生活のルールなど、大幅に見直す部分があるという意見もたくさん出ました。そうして出来上がった改訂案を1月職員会議で決定し、生徒会から「生徒会だより」にて全校に周知されました。

「決められたルールに従うこと」と「自分で主体的に判断して決めること」

…まだまだ成長途中の中学生には、迷いや間違いがあるでしょう。昔と違って「決められたことに従えば楽」という風潮もあります。でも、これからの人生では、いずれも必要になる力です。どちらか一方に偏ることなく、その都度考え判断し、成功や失敗の経験を重ねることで、生きる力を育んでほしいと願います。



生徒の意見のなかには、こんな声もありました。子どもたちは、大人が思うよりも広く深く考え、今の時代をしっかりと捉えているのかもしれません。学校も、社会や時代の変化に対応できる柔軟性を持たねば…と痛感します。

ツープロックがいけないという校則。過去にツープロックがなぜだめなのかと元担任に聞いたことがあるのですが、「俺はいいと思うけど、入試の時に高校がどう判断するかわからない」という答えが返ってきました。義務教育を経てさらに学びを深めるところである高校が、もしツープロックはよくないという意見だしたら、世界が目指す多様性を尊重する社会など実現不可能だと思う。きっと高校、大学だってこう言うのだろう「就職活動で苦労するぞ」と。「ツープロックはイメージがよくない」「ツープロックはふざけている」なんて思う人もいるのかもしれないが、ツープロックに対してポジティブな思いを持っている人もいます。それに人を見た目で判断するべきでないというのは道德の基本でしょう。見た目ひとつで勝手にイメージしてそれを周りに広める。また、広められた情報を真実と思い込んでしまうのも日本人のわるいところ。多文化共生社会を目指すのであれば、先入観、保守的考えを捨てるのが大事。まず、こういった身近なところから変わってほしい。(3年生)

令和5年度 学校自己評価結果より



先般のコミュニティスクール運営協議会で、本年度の学校自己評価結果を検証しました。特に、生徒・教職員の評価は高いものの、保護者評価が3.0を下回る項目については、改善に向けた取り組みが必要です。

◆生徒・教職員の評価が高く、保護者評価が低い(3.0未満)項目

【学習面】 わかる授業、特別支援教育の充実、キャリア教育の充実、朝の読書の有効性

いずれも、学習面の評価項目であり、保護者の方からは、「家庭学習が定着しない」「学習意欲が乏しい」との不安の声も挙げられました。基礎学力の定着や家庭学習の習慣化は、本校の大切な課題であると認識しています。次年度は、学校で行う補充学習に加え、家庭学習の習慣化に向けた取り組みを強化してまいります。また、授業において、子どもたちが主体的に学ぶ場の設定を意図的に増やしていきたいと思っております。

一方、運営協議会では、生徒・教職員評価と保護者評価に大きな差のある項目について、学校の現状が保護者にうまく伝わっていないのではないかとのご指摘をいただきました。デジタル化がすすむなか、学校や子どもたちの姿をいかなる手段で伝えていくのか、試行錯誤は続きます。保護者や地域の皆さんが、ともに学校づくりへ参画していただけるよう、さらなる情報発信に努めてまいります。

令和5年度 学校自己評価結果

※1 評価値は4段階評価の平均値 ※2 保護者回答率72.6%

領域	自己評価項目	評価者	評価値※1	設 問
教育目標	1 学校教育目標・学校づくり	教職員	3.6	教①:学校教育目標・学校づくりビジョンは、生徒たちの実態に即した適切なものである。
		保護者※2	3.2	保①:学校教育目標・学校づくりビジョンは、子どもたちの実態から見て適切なものである。
	2 学校教育目標・学校づくりビジョンの実現に向けた努力	教職員	3.5	教②:学校教育目標・学校づくりビジョンの実現に向けて適切な取組を行っている。
		生徒	3.6	生①:先生は、朝明中学校をよりよい学校にするために努力している。
学習面	3 わかる授業	教職員	3.6	教③:基礎・基本の定着を図るため、指導内容の精選や授業改善・工夫をしている。
		生徒	3.5	生②:先生は、授業やテストで間違えたところ、理解していないところを分るまで教えてくれる。
		保護者	2.8	保③:お子さんは、学校で授業を分かりやすいと感じている。
	4 特別支援教育の充実	教職員	3.5	教④:生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズに応じた指導・支援を工夫している。
		生徒	3.5	生③:先生は、一人ひとりに応じた学習や生活面でのサポートをしている。
		保護者	2.9	保④:学校は、生徒一人ひとりに応じた指導・支援を工夫している。
	5 特色ある教育課程の編成	教職員	3.6	教⑤:総合的な学習の時間や行事等は、特色ある教育課程をめざしたものとなっている。
		生徒	3.6	生④:総合的な学習の時間や行事等には、興味や関心を持って取り組める。
		保護者	3.1	保⑤:学校は、総合的な学習の時間や行事等で、特色ある教育活動を行っている。
	6 道徳・人権教育の充実	教職員	3.7	教⑥:心の教育の充実のため、道徳・人権教育の推進に努力している。
		生徒	3.7	生⑤:学校では、思いやり、命の大切さ、社会のルール、人権などを学ぶ機会が多い。
		保護者	3.1	保⑥:学校は、豊かな心をもち人権を大切に子どもを育てようとしている。
	7 キャリア教育の充実	教職員	3.3	教⑦:生徒の興味、関心、適性に配慮し、3年間を見通したきめ細かい進路指導を行っている。
		生徒	3.3	生⑥:学校では、進路について十分に学ぶことができ、進路の情報も知らされている。
		保護者	2.9	保⑦:学校は、進路に関して十分な学習を行い、家庭への適切な情報提供もを行っている。
	8 適切な評価	教職員	3.7	教⑧:生徒の能力や努力、学力を適切に評価している。
		生徒	3.5	生⑦:先生は、学習の評価を適切に行っている。
		保護者	3.1	保⑧:学校は、子どもの能力、努力、学力を適切に評価している。
	9 朝の読書の有効性	教職員	3.4	教⑨:朝の読書により、読書の関心が高まり、落ち着いた学校生活が送れるようになっている。
生徒		3.5	生⑧:朝の読書で、読書するようになったり、落ち着けるようになったりしている。	
保護者		2.7	保⑨:お子さんは、朝の読書により、読書に関心を持ったり、落ち着けるようになったりしている。	
生活面	10 充実した学校生活①	教職員	3.5	教⑩:生徒は、伸び伸びと学び、充実した学校生活を送っている。
		生徒	3.5	生⑨:学校生活は楽しいと思う。
		保護者	3.2	保⑩:お子さんは、学校生活を楽しく過ごせるようになってきている。
	11 充実した学校生活②	教職員	2.9	教⑪:生徒は、学校や地域で自分からあいさつをすることができる。
		生徒	3.5	生⑩:学校や地域で、自分からあいさつをしている。
		保護者	3.1	保⑪:お子さんは、学校や地域で自分からあいさつをしていると思う。
	12 生徒指導上の問題への対応	教職員	3.4	教⑫:いじめや暴力行為などの問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている。
		生徒	3.6	生⑪:先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応している。
保護者		3.1	保⑫:学校では、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる。	
13 カウンセリングマインドに基づく生徒との関わり	教職員	3.6	教⑬:生徒とのふれ合いを大切にして、生徒の心に寄り添う生徒指導に努めている。	
	生徒	3.3	生⑫:困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	
	保護者	3.1	保⑬:お子さんは、先生たちが親身になって接していると感じている。	
14 部活動の充実	教職員	3.5	教⑭:課外活動の役割を認識し、部活動の指導に取り組んでいる。	
	生徒	3.6	生⑬:部活動は、楽しく充実している。(部活動に所属している生徒対象)	
	保護者	3.3	保⑭:お子さんは、部活動が楽しく充実していると感じている。(部活動に所属している生徒対象)	
家庭や地域の信頼に学校が応えられる	15 保護者や地域との連携	教職員	3.5	教⑮:「地域とともにある学校づくり」をめざし、保護者や地域の人たちとの連携を大切にしている。
		生徒	3.4	生⑭:授業参観や総合的な学習の時間などで、家族や地域の人たちと触れ合う機会がある。
		保護者	3.3	保⑮:学校は、授業を公開したり子どもたちが地域の人たちに教えてもらう機会を積極的に設けている。
	16 危機管理体制(安全対策)	教職員	3.3	教⑯:日常的な安全指導や、不測の事態に対処できる不審者対応などの危機管理体制が整っている。
		生徒	3.6	生⑮:安心して学校生活を送ることができる。
		保護者	3.2	保⑯:学校は、生徒が安心して学校生活を送れるよう安全に配慮している。
	17 情報発信の努力	教職員	3.5	教⑰:通信・HPやH&S、懇談会等で学校の様子やお知らせを保護者や地域に分かりやすく伝えている。
		保護者	3.2	保⑰:学校は、通信・HP、懇談会等で教育方針や学校の様子を分かりやすく伝えている。
		教職員	3.4	教⑱:家庭訪問などを通して、保護者や地域の人たちの願いを掴むように努力をしている。
18 情報受信の努力	保護者	3.2	保⑱:学校は、保護者や地域の人たちの願いや思いを受け止める努力をしている。	
	教職員	3.7	教⑲:保護者や地域の人たちからの問い合わせや来校者に対して、誠実に対応している。	
19 教職員の応対(接遇)	保護者	3.4	保⑲:学校(教職員)は、電話での問い合わせや学校を訪問したときに、誠実に対応している。	